

令和6年3月  
第2回清水町議会定例会一般質問事項

| 質 問 者        | 質 問 事 項  |
|--------------|--|
| 議 席 氏 名      |  |
| 2<br>田 村 幸 紀 | <p><b>1 自治体DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進に向けた進捗</b></p> <p>現代社会ではデジタル技術の急速な進展により行政サービスのデジタル化も本格的に取り組むことが求められている。</p> <p>人口減少や少子高齢化、それに伴う担い手不足や地域経済の縮小傾向は避けて通れず、小さくても質の高い行政サービスを提供するという町の基本理念のなかで、同時に減少していく役場職員が多くの地域課題を解決することは非常に困難な時代が近づいてきていることは、人口ビジョンで示す生産年齢人口推計を見ても明らかである。</p> <p>令和2年12月に自治体DX（デジタル・トランスフォーメーション）推進計画を国が示し4年が経過した。この自治体DXとは、デジタル技術を活用して町民の利便性向上やアナログな業務をデジタル化することで、行政サービスの質を高めることを指すが、単に「D:デジタル技術」を導入するものではなく、行政サービスを「X:トランスフォーメーション（変化・変革）」することを意味している。デジタル技術で業務を効率化することは、通常業務の労働時間が圧縮され、余力を以って手助けが必要な方々へきめ細やかなマンパワーを発揮できるものとして、これからの時代で必要不可欠であると強く感じている。令和6年度町政執行方針で「日々変化する社会状況を的確に捉え、デジタル技術を活用し行政サービス向上の取り組みを進めていく。」と述べられた内容は、令和5年度町政執行方針でも「生活の安全安心、産業振興、定住促進魅力発信を進める上で、環境・デジタルの要素を取り込み、町民と共に新しい時代のまちづくりに取り組む、GX、DXを強く意識して行動していく。」とほぼ同様のスタンスで述べられている。</p> <p>目まぐるしいスピードで変革する社会情勢とこれからも起こり得る様々な地域課題解決に向け、本町の自治体DXの推進と導入計画について次のとおり伺う。</p> <p>(1)今年度における自治体DX推進状況の進捗と令和6年度事業でどのように展開していく考えか。</p> |

| 質 問 者 |     | 質 問 事 項  |
|-------|-----|--|
| 議 席   | 氏 名 |  |
|       |     | <p>(2) 2期4年目の阿部町政において、清水町内、役場庁内のDXについて具体的にどのレベルまで到達したいと考えているか。</p> <p>(3) 自治体DX推進と導入における業務量と組織体制の点での適正配置についてどのように考えているか。</p> |

| 質<br>議 | 問<br>席 | 者<br>氏  | 質<br>問<br>事<br>項 |
|--------|--------|---|------------------|
| 9      | 佐藤幸一   | <p><b>1 妊婦健康診査等に対する支援について</b></p> <p>本町の子育て支援については、出産時や出産後に重点が置かれているが、妊婦さんが町外の医療機関で受診する健康診査や出産時の交通費の助成を行うことによる子育て支援の拡充について伺う。</p> <p><b>2 まちの景観について</b></p> <p>町長は交流人口を増やし、まちの活性化を図ろうとしているが、そのためには、魅力あるまちづくりと共に景観にも配慮する必要がある。</p> <p>存在しない温泉看板の乱立や、国道38号と本通りの交差点に設置する看板支柱の錆や切れたままの照明、御影に設置したままの開町100年看板、町道はもちろん管理は別であるが国道や道道の車道と歩道の境の雑草などの対応について伺う。</p> <p><b>3 清水高等学校存続支援について</b></p> <p>清水高等学校の令和6年度の出願状況は、募集人員120人に対して80人となっており、実際入学する生徒は60人台前後と想定される。</p> <p>このままでは、募集人員が80人、40人と減少しその先は閉校へと進んでいくことが危惧される。</p> <p>保護者や子どもに選ばれる学校に変えていくために学校現場の取り組みは不可欠であるが、町としても全面的な支援を行う必要があると考える。</p> <p>他町でも実施し、効果が上がっているとされている次の支援策を実施する考えがないか伺う。</p> <p>(1) 入学準備金制度の創設<br/> (2) 通学費の助成<br/> (3) 見学旅行費の助成</p> |                  |

| 質 問 者 |         | 質 問 事 項  |
|-------|---------|--|
| 議 席   | 氏 名     |  |
| 1     | 山 本 奈 央 | <p>1 「十勝清水学」をもっと多くの方が学べる機会を</p> <p>町内の小中学校では2019年から、ふるさと「清水町」の自然、歴史、文化、産業などを調べ、地域の未来の姿を考え、地域のために行動する取り組みなど、地域への愛着醸成に繋がる「十勝清水学」を学習している。まちの強みや先人から受け継いできた郷土の誇りや魅力を未来に繋ぐために、子供たちだけではなく、町民や町に関わる方も「十勝清水学」を学べる機会をさらに増やしてはどうか伺う。</p> |

| 質 問 者 |       | 質 問 事 項  |
|-------|-------|--|
| 議 席   | 氏 名   |  |
| 5     | 中河つる子 | <p><b>1 能登半島地震を見ながら、清水町の災害対策を考える</b></p> <p>本年1月1日、真冬に発生した能登半島地震では避難所で住民が寒さに震えた。この地震が北海道の本町で起きていたらどうなっていたかと考えざるを得ない。</p> <p>本町でも8年前、台風10号による災害でペケレベツ川、芽室川、久山川などが氾濫し、突然町民の平和な暮らしを襲った。国道をはじめ、多くの道路を寸断し、ライフラインに大きな影響を与え近年まで回復しなかったことを思い出す。</p> <p>そこで以下の点について町長の考えを伺う。</p> <p>(1) 清水町の防災について、町民が理解をし行動をするために、どのように広報活動が行われているか。</p> <p>(2) 被災した町民に対する避難所の設定、運営についての方策はどのようなになっているか。</p> <p>(3) 災害弱者である高齢者、体の不自由な方、女性、子どもに対する、避難所における安心、安全な対策が具体的に立てられているか。</p> <p>(4) 過酷な寒さの時期の災害に備えて、備蓄品や非常用持ち出し品の再点検が必要ではないか。</p> |

| 質<br>議 | 問<br>者 | 質<br>問<br>事<br>項   |
|--------|--------|--|
| 席      | 氏<br>名 |  |
| 3      | 只野敏彦   | <p><b>1 蜂の巣駆除について</b></p> <p>蜂の巣駆除については希望する 65 才以上の世帯は町で行っているが、近隣にその世帯の子どもが住んでいる場合は対象とならない。何とかならないかという声を町民から聞くが、改善する考えがあるか伺う。</p> <p><b>2 体育館建設について</b></p> <p>現在進められている、体育館建設に対して再考するべきだと思う。町民の中にも物価高騰の中、我々の生活を守るべきだという声が多くなっている。もう一度、体育館建設に対して協議するべきと考えるがいかがか。</p> <p><b>3 人口減少対策について</b></p> <p>2050 年の人口推計が発表され、清水町の人口は 5,667 人と予測されている。十勝管内では変わらず 5 番目の人口である。しかし、26 年後の予想であり、今後の努力次第では、5,667 人より増加するかもしれないが、逆に減少するかもしれない。ついては、以下について伺う。</p> <p>(1) 清水町独自の人口推計があるならば、2030 年、2040 年、2050 年の人口予測について伺う。</p> <p>(2) 人口が 5,667 人を下回らないよう、どのような努力をしているのか伺う。</p> |